

高松大学大学院学修成果の評価項目と達成すべき水準及び活用方法

研究科レベル	入学前・入学直後			在 学 中			修了時（修了後）		
	項 目	達成すべき水準	活用方法	項 目	達成すべき水準	活用方法	項 目	達成すべき水準	活用方法
学生の志望進路等から、入学した学生の学修成果の達成状況を検証します。検証結果は、高松大学大学院の現状把握、教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に活用します。	学力検査・小論文 面接・面談 調査書等の記載内容	基準点（非公表）以上	アドミッション・ポリシーに適合しているかどうかの検証に活用	修得単位数	30単位（そのうち必修科目として特別演習Ⅰ（※1）4単位と特別演習Ⅱ（※2）4単位を修得のこと）以上	学修成果をあげることができたかの検証に活用	修了認定・学位授与率	30単位（共通科目と専門科目を併せて）以上を満たした者 修士論文を主査1名と副査2名で審査し合格とした者に修士号（経営学）を授与する（※3） (修了者数÷当該年度5月1日現在の修了年次在籍者数)	学修成果をあげることができたかの検証に活用
				休学率	5%以下 (休学者数÷当該年度5月1日現在の在籍者数)	学生生活の状況の検証に活用			
				退学率	5%以下 (退学者数÷当該年度5月1日現在の在籍者数)	学修支援体制の検証に活用			
	「学生による授業評価」 設問1 設問8 設問9	1・・・授業への主体的・積極的な取り組みについて「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 8・・・専門知識を深められたことについて「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 9・・・経営に関する実践力の伸長について「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 (当該段階評価者合計数÷評価者数)	専門科目及び共通科目に関して次年度の授業改善に活用	標準修業年限内修了率	90%以上 (当該年度者修了者数÷当該年度入学者数)	3つの方針の検証に活用			
				進路状況	ほぼ全員が進学又は就職 (進学者数+就職者数)÷当該年度者修了者数	就職状況の検証に活用 進学傾向の検証に活用			
留年率	修了年次在籍者数のほぼ0% (留年者数÷前年度5月1日現在の卒業年次在籍者数)	留年する学生はほぼ0なので、特に対策は実施していない							
「満足度アンケート」 設問10 設問11	10・・・「共通科目の学習成果」について「非常に満足」と「かなり満足」の回答合計が50%以上 11・・・「専門科目での学習成果」について「非常に満足」と「かなり満足」の回答合計が50%以上 (当該段階評価者合計数÷評価者数)	本学における教育が学生のニーズにしているかどうかの検証に活用							
科目レベル				項 目	達成すべき水準	活用方法			
シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価や学生授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。科目の成績評価は、科目の特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した評価方法に沿って行います。				学生の成績	60点以上が60%以上 (単位認定者数÷履修者数)	学修成果をあげることができたかの検証に活用			
				「学生による授業評価」 設問1 設問8 設問9	1・・・授業への主体的・積極的な取り組みについて「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 8・・・専門知識を深められたことについて「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 9・・・経営に関する実践力の伸長について「非常にそうである」と「かなりそうである」の回答合計が70%以上 (当該段階評価者合計数÷評価者数)	専門科目及び共通科目に関して次年度の授業改善に活用			

(※1) 特別演習Ⅰ：研究計画書に沿った研究活動の内容となっていること

(※2) 特別演習Ⅱ：研究計画書に沿った研究活動の内容となっていること（学位論文中間報告会における発表を含む）

(※3) 修士論文は「高松大学学位規程」別表Ⅰの学位論文審査基準を考慮し評価を行う